

第26回日本褥瘡学会 学術集会

COI開示

仙骨部圧に対し自動体位変換機能付きエアマットレス
を導入し体圧管理した一症例における一考察

発表者名：二田亮 下江甲作 新田博之 西中川剛

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべき
COI関係にある企業などはありません

目的

- 自動体位変換機能搭載マットレス（以下、自動マットレス）が開発され、その褥瘡予防効果が期待されている
- 今回、仙骨部圧が高い症例に自動マットレスを用いた体圧管理を実施し検証した

倫理的配慮、説明と同意

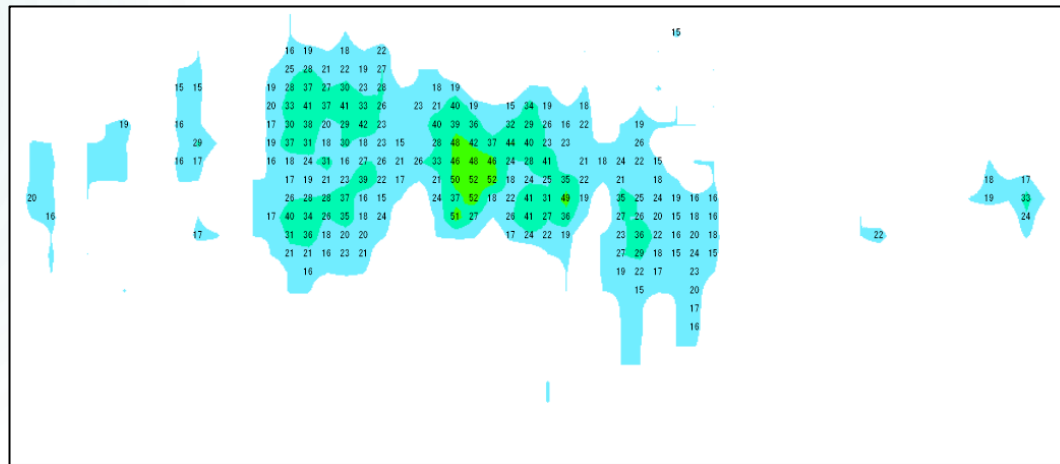
- ・ ヘルシンキ宣言に基づき個人情報保護に努めた
- ・ 全員に本研究の説明を十分に行い、書面にて同意を得た
- ・ 本調査は中部学院大学倫理審査委員会の承認（C23-0032）を得て実施

対象

- ▶ 年代：90歳代
- ▶ 性別：男性
- ▶ BMI：17.9kg/m²
- ▶ 要介護度：5
- ▶ 診断名：誤嚥性肺炎
- ▶ 現病歴：誤嚥性肺炎を繰り返し胃瘻造設後、当施設（有料老人ホーム）入居
- ▶ OHスケール：7点
- ▶ 基本動作能力：ADL能力全介助レベル
- ▶ ROM-T：股・膝関節にROM制限あり

測定機器・使用機器

- ✓ マットレス：利楽flow【パラマウントベッド社】（自動体位変換機能を使用）
- ✓ 評価機器：SRソフトビジョン™【住友理工】（体圧測定器）



方法

- ✓ 仙骨部圧に対してそれぞれ約1時間の体圧を比較検証

エアマットレス
体圧測定

- 従来の方法
- 体位変換を実施した際の体圧測定

利楽flow
体圧測定

- 自動体位変換機能
- エアセルが入れ替わった際の体圧測定

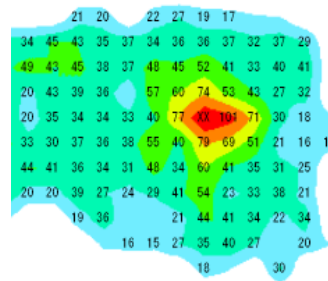
結果

	エアマットレス	利楽flow ※1
平均値体圧（背臥位）	31mmHg （局所圧一部を除く）	15～21mmHg
平均値体圧（後傾側臥位）	24～28mmHg （局所圧一部を除く）	
最大値体圧（仙骨周囲）	110mmHg以上	59～65mmHg

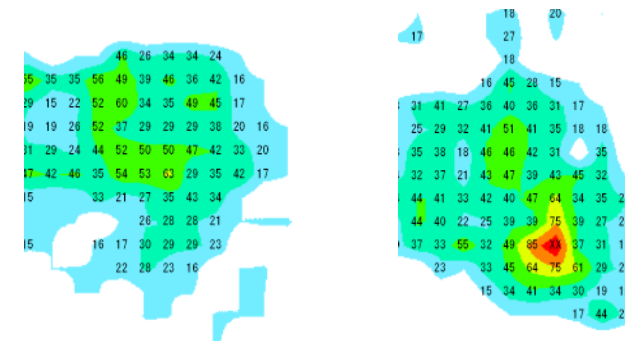
※1 自動体位変換機能を使用した結果
エアマットレスとの比較として背臥位・後傾側臥位の結果を参照

エアマットレス

背臥位

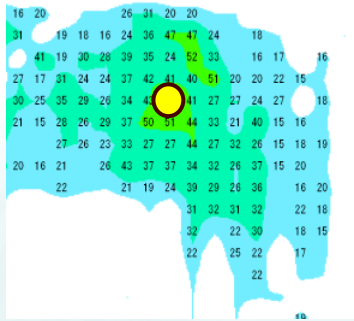


左後傾側臥位
右後傾側臥位



結果

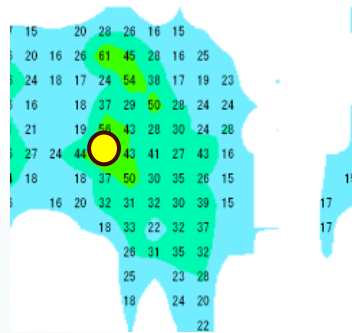
背臥位 (右下凸)



15分



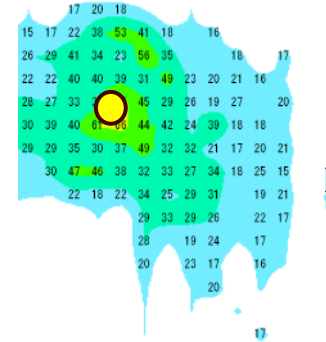
背臥位 (右上凸)



15分



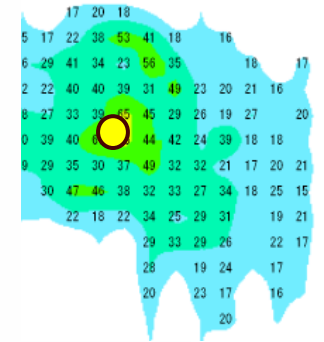
背臥位 (左下凸)



15分



背臥位 (左上凸)



仙骨部圧 (臀部周囲) の体圧
●高局所圧の位置

自動体位変換機能により高局所圧の位置変化が認められた

考察

- ▶ 自動マットレスは局所圧の平均値を下げることが示された
- ▶ 各エアセルの作動により臀部の高局所圧の位置が変化し続けた
- ▶ 適切な臥位姿勢における自動体位変換機能の有用性が推測された

結論

客観的な体圧測定により自動マットレスは局所圧を下げ、高局所圧の状態が継続することを防ぐ効果が期待された